

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：輸血検査研究班 提出日：令和3年6月6日 報告者：片井 明子

行事種別	研究会	行事番号	210000148
開催日	令和3年5月8日(土)~5月21日(金)		
時間	開始	—	終了
場所	Web配信(Web録画)		
テーマ	症例やインシデント事例から学ぶ輸血検査・輸血療法		
生涯教育履修点数	基礎教科 20点 (e-learning に回答した会員にのみ付与)		
司会	安城更生病院 山本 善之		
講師	<p>講演1：血液型検査編 JA愛知厚生連 渥美病院 小久保 元孝</p> <p>講演2：不規則抗体・交差適合試験編 JA愛知厚生連 豊田厚生病院 松井 貴弘</p> <p>講演3：緊急対応編 小牧市民病院 水野 友靖</p> <p>講演4：失敗は成功のもと！しくじりから学ぶ輸血検査 豊橋市民病院 中村 藍</p>		
内容	<p>遭遇することが多い異常反応や緊急輸血対応について、血液型検査編、不規則抗体・交差適合試験編、緊急対応編に分け、症例を提示することで、わかりやすくより具体的に説明していただきました。また、安心安全な輸血のために何が出来るかを、輸血に関するインシデント事例をもとにした内容の講演としました。</p> <p>日当直で一步間違えればアクシデントとなりかねない輸血業務に不安を感じる方は多いかと思います。視聴の際は、2020年10月AiCCLS発行「輸血検査における標準手順書」第3版を手元においていただき、より理解を深めていただけたと思います。今回は約3割が県外からの参加者でした。自分の好きな時間に、繰り返し見ることができ理解を深めることができ、また質問も多数お寄せいただきました。(7月上旬参加者全員へメール予定) Web開催ならではの有意義な研究会となりました。</p> <p>申し込みは342名で235名のレポート提出がありました。</p>		
参加者	総数：240名(会員169名、県外会員66名、非会員0名、賛助会員5名、学生0名)		
共催、後援など	特になし		

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：輸血検査研究班 提出日：令和3年9月3日 報告者：片井 明子

行事種別	研究会	行事番号	210003062
開催日	令和3年8月14日(土)～8月27日(金)		
時 間	開 始	—	終 了
場 所	Web 配信 (Web 録画)		
テーマ	最近の輸血トピックス		
生涯教育履修点数	専門教科 20 点 (e-learning に回答した会員にのみ付与)		
司 会	名古屋市立大学病院 南里 隆憲		
講 師	<p>講 演 1 : 検査技師の視点から見る輸血副反応—TRALI 判定基準変更を踏まえて 名古屋市立大学病院 小池 史泰</p> <p>講 演 2 : 当院における COVID-19 に関わる経験 ～輸血関連業務や輸血使用量の変化～ 愛知医科大学病院 片井 明子</p> <p>講 演 3 : 質問コーナー「あなたの質問に答えます！」 社会医療法人宏潤会 大同病院 稲生 千絵美</p>		
内 容	<p>新型コロナウイルス感染症蔓延のため研究会の現地開催ができない状況のなか、何が Web オンデマンドでできるか？班の中で検討し、テーマは「最近の輸血トピックス」としました。講演 1 では 2021 年度より新基準になった TRALI の基準について取り上げ、輸血副反応への臨床検査技師の対応についても講演内容に盛り込みました。講演 2 では全世界で猛威を振るっている COVID-19 に関する話題で、輸血療法や輸血使用量の変化についての内容を取り上げました。また現地開催ではその場で気軽に日頃の輸血検査や輸血療法への疑問について相談できたことが、コロナ禍でできなくなりましたので、講演 3 では事前に質問を募り、受け付けた質問についてお答えする講演内容としました。</p> <p>Web 開催となり、全国から参加いただきました。明日からの業務に役立つ内容を輸血検査・輸血療法に関わる技師と共有することができ、有意義な研究会となりました。申し込みは 277 名で 193 名のレポート提出がありました。</p>		
参加者	総数：197 名(会員 134 名、県外会員 59 名、非会員 0 名、賛助会員 4 名、学生 0 名)		
共催、後援など	特になし		

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：輸血検査研究班 提出日：令和3年12月2日 報告者：片井 明子

行事種別	基礎講座	行事番号	210006391	
開催日	令和3年11月20日(土)			
時 間	開 始	13:00	終 了	16:00
場 所	Web 配信 (Web ライブ)			
テーマ	みんなで学ぼう輸血検査～検査の基本的な手技やコツを身につけよう～			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司 会	豊川市民病院 沖松 秀美			
講 師	スポイド検定：医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院 磯部 勇太 症例 1,2 動画解説：JA 愛知厚生連 江南厚生病院 原田 康夫 血液型検査・交差適合試験・総括：豊川市民病院 沖松 秀美 事前質問解説：名古屋市立大学病院 南里 隆憲 質疑対応：豊川市民病院 沖松 秀美、JA 愛知厚生連 江南厚生病院 原田 康夫 医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院 磯部 勇太 名古屋市立大学病院 南里 隆憲 社会医療法人 大雄会 総合大雄会病院 関山 真実			
内 容	輸血検査の基礎講座は実技研修会を行ってきましたが、新型コロナウイルス感染症蔓延のため現地開催ができない状況のなか、どうやったら Web でできるか？班の中で検討してきました。今回は、テーマ「みんなで学ぼう輸血検査～検査の基本的な手技やコツを身につけよう～」とし、基本コースを Zoom ミーティング（対面式）で実施しました。輸血検査は用手法で検査することも多く、用手法で出す結果は、その手技の基本操作や基本的な考え方が、結果の精度を高め維持するために必要であり、基本コースの内容に盛り込みました。まず、基本操作についてスポイド検定の解説や動画を使用して解説しました。基本操作について事前課題として操作の良い点悪い点を事前に考えて回答していただきました。基礎講座当日、基本操作の解説、基本的な対応、どのように臨床へ報告するかについて、解説していきました。今回は Zoom ミーティングでの開催であり、質問も多く出ましたので、Zoom 機能を利用し、その場で回答しながら考えていく場面もありました。明日からの業務に役立つ内容を輸血検査に関わる技師と共有することができ、有意義な基礎講座となりました。			
参加者	総数：52 名(会員 52 名、内県外会員 11 名) 実務委員（講師・会場）9 人含む			
共催、後援など	特になし			

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：輸血検査研究班 提出日：令和3年12月20日 報告者：片井 明子

行事種別	講演会	行事番号	210011117	
開催日	令和3年12月11日(土)			
時 間	開 始	15:00	終 了	18:00
場 所	Web 配信 (Web ライブ)			
テーマ	「造血幹細胞移植関連業務」採取・移植・治療～各職種の立場から～			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司 会	愛知医科大学病院 片井 明子			
講 師	<p>講師 1:造血幹細胞移植におけるフローサイトメトリーの役割 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 池口 美代子</p> <p>講師 2:臨床検査技師による末梢血幹細胞移植への参画 藤田医科大学病院 杉浦 縁</p> <p>講師 3:幹細胞移植への関わり～看護師より～ JA 愛知厚生連 豊田厚生病院 小見山 貴代美</p> <p>特別講演：同種造血幹細胞移植と低免疫グロブリン血症 金沢大学付属病院 血液内科 石山 謙</p>			
内 容	<p>テーマ「造血幹細胞移植関連業務」採取・移植・治療～各職種の立場から～とし、10月に法改正に伴い業務が拡大されたことを受け、他職種（医師、看護師）からも、広く知識を得れるような内容で講演会を実施しました。末梢血幹細胞採取業務で採取時の穿刺、機械の操作や抜針などの業務が可能になったことから、アフエレーシスナーズ、臨床輸血看護師より採取時の穿刺のコツや患者さんと接する業務についてのご講演を、また検査技師より拡大された業務への関わり方についてのご講演いただき、今後その業務に関わる可能性がある私たちにとって有益な情報でした。また従来より検査技師が行ってきた CD34+細胞測定は、採取タイミングをきめる重要な検査であり、長年その業務に携わってきた検査技師より検査のポイントなどをご講演いただきました。特別講演では、造血幹細胞移植の現状や移植後の造血能力回復までの間、感染症予防のために使用されることがある免疫グロブリン製剤の使用ガイドラインについて、わかりやすくご講演いただきました。質問も多数寄せていただき、終了時刻より30分も延長してしまいましたが、最後までご聴講いただけました。造血幹細胞移植関連業務を行なっている施設にとって役立つ内容を共有することができました。</p>			
参加者	総数：90名(会員86名(内県外会員26名)、看護師2名、医師1名、賛助会員1名)			
共催、後援など	一般社団法人 日本血液製剤機構共催			

2021.12.20

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：輸血検査研究班 提出日：令和4年2月26日 報告者：片井 明子

行事種別	研究会	行事番号	210015065	
開催日	令和4年2月12日(土)			
時間	開始	15:00	終了	17:30
場所	Web配信(Webライブ)			
テーマ	精度管理報告会～輸血検査の標準化について考えよう～			
生涯教育履修点数	基礎教科 20点			
司会	藤田医科大学 松浦 秀哲			
講師	講師 1:2021年度精度管理報告 JA愛知厚生連 安城更生病院 山本 喜之 講師 2:コンピュータークロスマッチーその有用性と導入にあたっての注意点ー 大阪市立大学医学部附属病院 藤野 恵三 講師 3:『輸血のための検査マニュアル』改定のポイント 近畿大学病院 井手 大輔			
内容	テーマ精度管理報告会～輸血検査の標準化について考えよう～とし、まずは2021年度輸血検査精度管理報告にて愛知県の結果、課題と今後についてお伝えし、そのあとに、標準化についての2講演開催いたしました。1つ目はタスクシフトシェアリングで関心が高くなってきておりますコンピュータークロスマッチについて、手法や自動機で交差適合試験を実施せずコンピュータークロスマッチの運用でいかに精度を維持するかなど、コンピュータークロスマッチを導入され10年以上の運用実績のあるご施設の講師よりご講演いただきました。また輸血検査は手法も多く、標準化を維持する上でマニュアルは非常に重要ですが、輸血細胞治療学会から出されている『輸血のための検査マニュアル』の作成に携わってみえる輸血検査技術講習委員長より今年度改定された箇所についてわかりやすくご講演いただきました。当初現地開催とWEBライブにハイブリッド開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大のためWEBライブ開催のみへ変更させていただきましたが、全国より多くの方々に参加していただきました。いずれの施設にとって役立つ内容を共有することができたと思われまます。			
参加者	総数：108名(会員106名(内県外会員31名)、賛助会員2名)			
共催、後援など	日本輸血細胞治療学会共催			